

板橋区立志村第三小学校 学校だより

令和6年度 第1号

令和 6年 4月 8日



しみず

校長 福井 みどり

【しみず学びのエリア】

志一中・志一小・志三小・富士見台小

- ・基礎学力を身に付け、自分の意見を持ち、学び続ける人
- ・規範意識を身に付け、自ら考え、判断し、行動する人
- ・心身ともに健康で、互いを認め合う喜びを感じとる人

「あたりまえ」に感謝

校長 福井 みどり

校庭の満開の桜が、子どもたちの入学や進級をお祝いしているようです。令和6年度は、新1年生69名、全校児童462名でスタートしました。保護者の皆様におかれましては、ご入学、ご進級、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度、志村第三小学校の校長として2年目を迎えました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年度末に挙行了した卒業式で、作家の小林正観さんのお話を卒業生に伝えました。「ここに1つのコップがあり、このコップの中に半分の水が入っています。1人は『半分しかないじゃないか。不愉快だ。』と言い、2人目の人は『半分の水が入っていて嬉しい。楽しい。幸せ。』と言い、さらに3人目の人は『誰かが半分残していつてくださった。ありがたい。』と言いました。でも、現象として『コップに半分の水が入っている。』ということに変わりありません。何が言いたいかと言うと、同じ物を見ても、同じ事象にあっても、人によって感じ方が違うということです。『半分しかない!』と怒っている人は、きっとコップに水がいっぱいあっても『一杯しかない』と怒ることでしょう。不平不満を感じるのは、自分自身の心の持ち方なのです。」というお話です。半分の水にも感謝をする心は、あたりまえのことに感謝できる心だと思います。

世の中には、たくさんの「あたりまえ」があります。いつも水が飲めるあたりまえ。寒い日にはヒーターをつけることができる電気があるあたりまえ。家族が美味しい食事を作ってくれるあたりまえ。いつも優しく温かく育ててくださったご両親へも、あたりまえと思わず、感謝の心を忘れないで欲しいと願います。いつもそばで見守ってくださっている地域の方々にも感謝です。今、あることは「あたりまえ」ではなく、たくさん感謝があふれているということです。志村第三小学校の子どもたちは、きっと、半分の水に感謝できる、素敵な子どもたちだと思います。「あたりまえ」に感謝する気持ちが大きくなれば、争いのない平和な世の中になると私は信じています。

今年度も私の学校経営の柱は「子どもが主役」の学校です。全ての判断基準の第一は子どもです。子どもにとって最善を尽くしてまいります。子どもにとって良いと思われることは積極的に行います。常に「これは子どもにとって良いことなのか、最善なのか。」と考える志村第三小学校であり続けたいと思っています。保護者の方々、地域の皆様にご協力いただきながら、「子どもが主役」の学校作りを進めて参ります。

ご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。